

文藝春秋

文春ムック
特別編集
メディカルムック
(本体1273円+税)

この一冊で
日本の医療の最前線が
よくわかる

スーパードクターに教わる

最新治療2026

がんの転移・再発が見つかったとき 高齢者を守るワケチン

Part I

がん・難病治療 最新情報

胃がん／食道がん
大腸がん／肝細胞がん
膵臓がん／肺がん／乳がん
がん放射線治療／脳卒中
心臓病／末期腎不全など

Part II

一般疾患治療 最新情報

慢性膵炎／糖尿病／腎疾患
目の病気／前立腺肥大症
不育症／腰痛／急性中毒
早産児・低出生体重児フォローアップ
小児に対する低侵襲手術など

Part III

高齢者医療 と施設

ますます増える
高齢者向け在宅医療
理学療法士が解説
老化スパイラルに
陥らないために



生稲晃子さんインタビュー

乳がん、2度の再発



研究する医師インタビュー

澤 芳樹 大阪大学大学院医学系研究科
心臓血管外科 教授

iPS細胞から生まれた 「心筋シート」で心臓を再生

重大疾病予防
最新情報

- ① がん予防
- ② 認知症予防

～特色ある
病院を訪ねて～

医療トップの視点

- ① がん研究会有明病院
- ② 国立循環器病研究センター
- ③ 国立国際医療センター
- ④ 国立精神・神経医療
研究センター

痛みからの解放へ 進化する慢性膵炎治療

繰り返す激しい痛みによって日常生活が制限される慢性膵炎。だが近年、治療法の進歩により、より多くの患者が痛みから解放される可能性が広がっている。今回は膵管ドレナージ術や Frey 手術の第一人者に話を聞いた。

取材・文◎進藤大郎

■慢性膵炎

慢性膵炎は膵管の狭窄や膵石により膵液の流れが障害され、持続的に炎症が起こる疾患である。主因はアルコール多飲で、男性に多い。強い腹痛や背部痛を特徴とし、進行すると脂肪性下痢や体重減少、糖尿病を生じる。治療は禁酒・低脂肪食・薬物療法から開始し、改善しなければ内視鏡的膵管ステント留置やESWLによる膵石破砕を行う。難治例では膵管ドレナージ術や膵頭部を部分切除するFrey手術など外科的治療が選択肢となる。

浅井浩司

東邦大学医療センター大橋病院
外科学講座／肝胆膵外科
准教授

あざい・こうじ 1997年東邦大学医学部卒業後、外科学第三講座に入局。英国キングス・カレッジ病院で肝移植フェローを務め、帰国後は肝胆膵外科・内視鏡外科を中心に研鑽。2019年より東邦大学医療センター大橋病院外科准教授。日本外科学会、日本肝胆膵外科学会などの専門医指導医で、多数の学会委員・ガイドライン改訂に携わる。急性胆道炎や膵疾患の外科治療・研究に尽力している。



強烈な痛みが襲い
長期間にわたり
膵臓を蝕んでいく

膵臓は腹部中央から少し上、胃の背中側にあり、食べ物を消化する酵素や血糖値を調節するインスリンの分泌を担う臓器である。

慢性膵炎は膵臓で長期間にわたる炎症が続き、本来の機能が衰えていく疾患であるが、発症する主な原因について東邦大学医療センター大橋病院肝胆膵外科准教授の浅井浩司医師が解説する。

「長期間にわたるアルコールの大量摂取によって発症します。女性もいますが、男性の患者さんが多いです。喫煙も症状を悪化させるリスクとされています。」

膵臓から分泌される脂肪を分解するホルモンやインスリンが減少していくため、糖尿病の発症、消化不良が起こり、膵臓内に石（膵石）ができます。

これら消化液の減少や膵石によって激痛に襲われて苦しんでいる患者さんが多いです。」

慢性的な病状が続けば10年から15年という長い年月をかけて膵臓全体が硬い線維状態に変化していき、元に戻すことは不可能である。

症状が進行していくと、膵臓が線維化することで、膵液の流れが悪くなり、膵臓内が膵液で膨らみ（膵管の拡張）、その溜まった膵液内のタンパク質が石となり膵石が生まれる。その状態を改善するためには膵管に管を入れる膵管ステントや、体外衝撃波結石破砕術で膵石を破砕する必要がある。

しかし再び石ができてしまったら、ステントとは違う部分が狭くなる可能性が高く、根本的な治療とは言えない。そこで膵臓の一部または全てを切除するものや膵臓の一部を切除し膵管を腸に繋げるといった外科的治療が選択肢となってくる。

膵管と腸のバイパス手術 膵臓全摘を回避した事例も

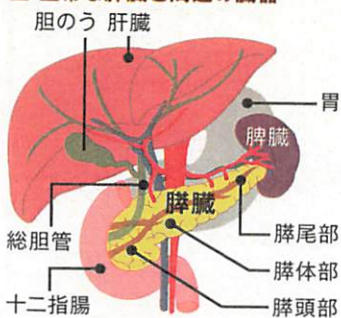
病変の位置によって切除する部位は変わるが、浅井医師らは外科治療のなかでも近年注目されているFrey手術に力を入れている。

「Frey手術とは拡張した膵管を開放し、膵頭部の部分切除を行ったのちに、小腸の一部である空腸を縫い合わせる膵管空腸側々吻合を行う膵管バイパス手術を言います。」

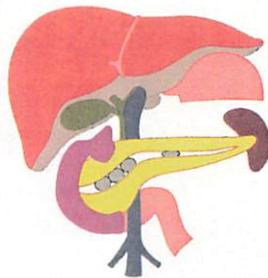
大量の石ができてしまっている

慢性膵炎とFrey手術

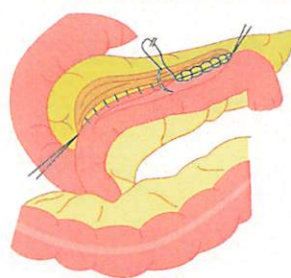
■ 正常な膵臓と周辺の臓器



■ 慢性膵炎・膵石症を伴った状態



■ 膵管空腸側々吻合術 (Frey手術:膵管ドレナージ術)

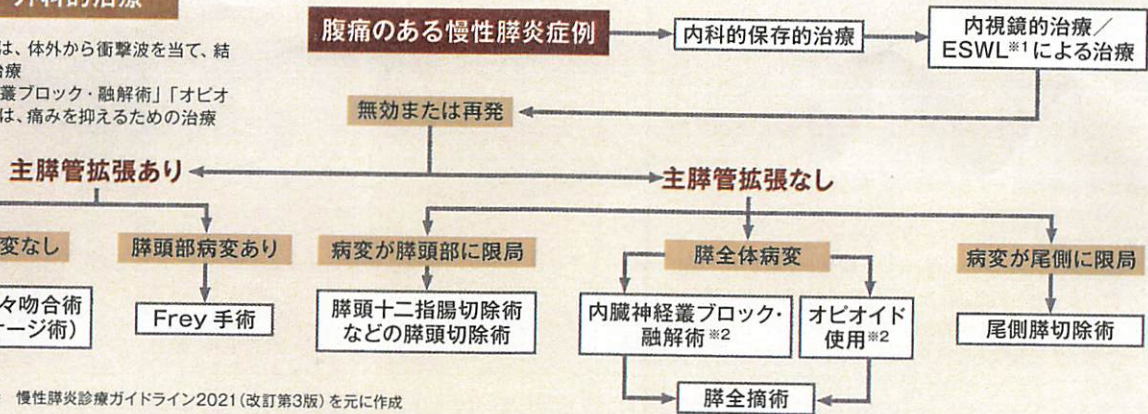


■ 再建後



慢性膵炎 外科的治療

※1 「ESWL」は、体外から衝撃波を当て、結石を砕く治療
 ※2 「内臓神経叢ブロック・融解術」「オピオイド使用」は、痛みを抑えるための治療



日本消化器病学会 慢性膵炎診療ガイドライン2021(改訂第3版)を元に作成

患者さんの場合は石を取り除きつつ、膵液の通り道を確保し、膵頭をくり抜き膵管を空腸に繋げていきます。

ある女性の患者さんは石ができて、2年間にわたり激痛に苦しんでおられた。他院で外科治療を相談したところ、膵全摘か膵頭部と十二指腸を全切除する膵頭十二指腸切除を提案されたのですが、他の方法はないかということでご当院を受診され、Frey手術を実施したところ、苦痛もなく日常生活を送ることができています。

慢性膵炎はかなりの激痛を伴う疾患であり、その痛みで満足に日常生活を送ることが難しい状態になっている患者が少なくない。前述の女性もそのような一人で、2か月に1回のペースで2年間にわたって石を破壊していたが、激痛に苦しんでいたという。

内科的治療では患者への肉体的負担が少なく、一時的な苦痛の緩和は期待できるが、近年では外科的な治療による痛みの緩和に関し

他院で膵臓を全摘する手術を提案された40代の男性も浅井医師のFrey手術を受け、苦痛のない日常生活を送ることができているという。

慢性膵炎はかなりの激痛を伴う疾患であり、その痛みで満足に日常生活を送ることができない状態になっている患者が少なくない。前述の女性もそのような一人で、2か月に1回のペースで2年間にわたって石を破壊していたが、激痛に苦しんでいたという。

「慢性膵炎を発症される方は40代から50代と若い方が多いため、膵臓を摘出する手術は大きな決断になり得るものです。そのような方のためにも膵臓を温存するパイパス手術は選択肢として大きいのではないのでしょうか」

患者の生活の質の維持や切除後の肉体的負担を考えると、慢性膵炎の治療において膵管のバイパス手術の存在は今後ますます注目されていくのではないだろうか。

でもかなりの効果が期待できるデータが公開され、内科的治療で無効だった症例に関して外科的治療により痛みを取り除くことができた事例も出てきたため、早期に外科的な治療を選択することが有効との見方になってきている。

「慢性膵炎は膵がんの発症リスクを高める疾患ですが、早期に手術をすることでがんの発症リスクを減らす可能性があることも現在明らかになりつつあります。」

外科的な治療のなかでもFrey手術は術後経過を含めて良好なものではないかとして期待されています」

浅井医師のいる東邦大学医療センター大橋病院では内科の医師が診察した段階で内科治療と外科治療を提案している。

「慢性膵炎を発症される方は40代から50代と若い方が多いため、膵臓を摘出する手術は大きな決断になり得るものです。そのような方のためにも膵臓を温存するパイパス手術は選択肢として大きいのではないのでしょうか」

患者の生活の質の維持や切除後の肉体的負担を考えると、慢性膵炎の治療において膵管のバイパス手術の存在は今後ますます注目されていくのではないだろうか。